

島田正治

わたしのメキシコ在住は、長年ツーリストカードで滞在してきた。これは六ヶ月、つまり半年ごとに更新しなければならない。そのためにはどこの国でもよいから一旦他の国へ出国をする。さしずめメキシコと隣接するアメリカ、あるいはグアテマラが近くて手取り早い。近年はずっとグアテマラ方面だった。もう二十回以上行っているから慣れたといえはほんとうでそう不安はない。今回はアメリカへ出国することにして、飛行機で ロサンゼルスまで行った。予定は日帰りである。まことに忙しい一日二十四時間の旅となった。

出かけにハプニングが起きた。何日か前に予約、たのんでおいた村のタクシー運転手、ヘルマン氏が、時間がきても車が来ない。国際線なので、二時間前には到着しなければならない。朝は六時半、あたりはまだまっ暗、さてどうしようか、三十分も待ったのに車は来ないから、とうとう待ちきれず、もうひとりのタクシー運転手アロ氏に電話でたのんだ。すぐにきてくれるということでひと安心した。この時間で大丈夫かと聞くと多分大丈夫でしょうと言った。

ヘルマン氏はメキシコ人としては珍しく、時間は割りと正確に守るほうであったが、さてどうしたことが、突発的に何かあったのだろうか。

さて、メキシコとロサンゼルスは二時間の時差があって、朝の十時半に無事空港に着いた。手荷物はなく、カバン一個まことに手軽で、こんな旅行は今だかつてしたことがない。空港の税関、荷物検査もすいすいで、むしろ何も持っていない旅行者などめったにいないから怪訝に思われたぐらいだ。

さすがにロスの空港は巨大でアメリカの西の玄関口、ターミナルには世界のあらゆる人種が集まり、ここを通過していく。わたしはメキシコへ戻る真夜中の十二時まで正味十三時間ここで待つことになったのである。こんなに多くの待ち時間を過したことは過去にめったにない。

空港を出て、ブラブラとあたりを探索しはじめた。手荷物がないから気軽で散歩まがいといえよう。ベンチに腰を下して、前ゆく人々をしげしげと眺めたり、とにかく飽きることがない。世界の国々を巡り歩いているような錯覚におそわれる。一体ここはどこだ。一時間も座っていると腰が痛くなりはじめたので、また場所を変える。

ひる過ぎて、そろそろお腹が減りはじめたので空港ターミナル内の食堂街へ行った。そこで一番に「にぎりずし」を買った。一箱十七ドル、あと日本のお茶と。これを食べて、また元気をとり戻した。東洋系でも日本人、韓国人、中国人、どれも外見ではなかなか区別しがたい。近くへ寄って話しているのを聞いて、日本人ではなかったとわかる。観察するに興味はつきない。持ってきた一冊の本もとうとう読むことがなかった。夕方になった。またお腹が減ってきたので二度目はラーメンを食べた。麺がしこしこしていておいしかった。スープも残さずみな飲み干した。七ドルだった。

あたりが暗くなり出して、帰りの飛行機の搭乗ゲートが気になりだしたので、そこまで三丁ほどのところ歩いていった。確認しておくとう安心し戸惑うことがない。けっこう夜の九時十時になってもあいかわらずの乗降客でにぎわっているのに驚く。

三度目の食事をした。今度はもりそばを食べた。六ドルだった。うすいおつゆのようなだし汁だったがそばは腰があって一気に食べてしまった。おいしかった。

わずか一日だけのロサンゼルス空港で三度食べた日本食は、やはり日本人には和食これに限ると思われ、満足度百パーセントでよろこんだ。真夜中の深夜便でメキシコ・グアハラ空港へ着き、チャパラへ戻ってきたのはそろそろ夜も明けようという朝の七時前だった。(つづく)